

甲南Today

甲南ピーブルのリレーションで、

未来を紡ぐ

No. 13
2003.3

国際都市神戸の足元から、
多文化共生を考えてみよう

Welcome! 誌上ゼミナール

フロンティアで学ぶユウジュ

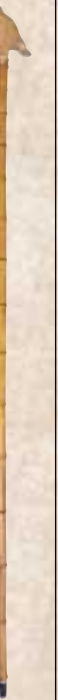
NETWORK KONAN
特集しながらー KONANネットワーク



甲南Today No.13

2003年3月15日発行 〔発行〕甲南学園広報室 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1 TEL 078-431-4341(代)

鳩杖



「恩賜の杖」(鳩杖とはづえ)

鳩杖は、辞書によれば「80歳以上の功臣に宮中から下賜された。鳩は食する時にむせない鳥であるとし、これにあやかるため、老人用の杖の握りの部分に鳩の形をつけたもの」とあります。学園の創立者平生鈞三部先生は、1945年、枢密院顧問官の功績により、この鳩杖を賜りました。現在は1号館1階にある学園史資料展示室で陳列されています(入場自由)。学園の歴史を広く知っていただき、平生先生の建学の精神を継承していきたいと願い、このコラム欄を「鳩杖」とネーミング。1952年に甲南高校をご卒業された中井久夫教授に当時の様子を書き下ろしていただいています。

恩師物語を続ける／夢みたいな授業と思うと大間違い／片々たる知識以上のものが生涯残ったと大勢が言う／実戦でもなかなかだつた／留年二回目になると転校か再留年かを選択させられる／転校組が行き先の学校で首席になった話はいくつもある／ドンコこと小林教授の英語は一年間でジェラントや接続法までやった／東大哲学科卒・ドイツ哲学全盛時代に英国論理分析哲学を専攻した先駆者／隠し味には論理分析哲学があつたのか／ドンコス・イングリッシュだけで一生間に合ったと級友は言う／数学は「解析」「微積分」を専科で終えた／米国では大学で微積分をやると呆れていた／その米国が「進学適性検査」をやった／センターテストの祖先／だが新作の人工言語の文を与えて文法を探らせるなど面白い／甲南のお得意／新高二回は全国一位／次の学年は全国二位でなかったか／それでいてずいぶん羽目を外しもした／教授方も困らされた生徒のことを懐かしがる。

中井久夫教授

文学部教授・神戸大学名誉教授・医学博士。昭和9年奈良県生まれ。甲南中学・甲南高校を経て昭和34年京都大学医学部卒。精神医学者として治療と研究に従事する。平成9年4月から文学部人間科学科教授。『精神医学の経験』全8巻他、著・翻訳書は多岐にわたる。



鳩杖に対するご意見・ご感想をいただきましたのでご紹介します。

毎回内容が充実していて含蓄深いものがあり、たいへん興味深く読んでいます。今後も連載をお願いします。(昭和35年卒・男)

いまこのように感動させられる講義がありますか?学生の態度にもよるのでしょうか。(昭和17年卒・男)

鳩杖を読むと甲南を身近に感じます。(昭和52年卒・男)



インターネットで甲南へ
<http://www.konan-u.ac.jp>

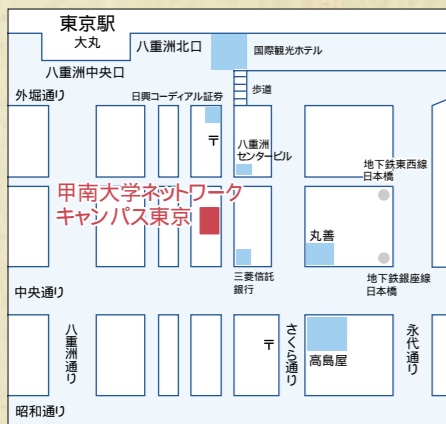
「甲南大学ネットワーク キャンパス東京」オープン

甲南学園東京事務所移転のお知らせ

東京地区での就職活動や東京甲南会をはじめとする同窓会活動をサポートしてきた「甲南学園東京事務所」が、「甲南大学ネットワークキャンパス東京」に拡大し、3月6日、JR東京駅八重洲口から徒歩5分の中央区日本橋に移転しました。

就職部職員が常駐し、本学が独自に開発した就職情報検索システムを、岡本キャンパスと同一環境で利用できるパソコンが設置され、首都圏での就職活動を強力に支援します。

また、首都圏の受験生や、その父母に向け、学園情報を積極的に発信します。卒業生や甲南関係者の交流の場として、会議室や応接室などのスペースもあります。ぜひ、気軽にお立ち寄りください。



〒103-0027
東京都中央区日本橋3丁目2番5号
川崎定徳ビル6階
TEL 03-3231-1007(代表)

去る1月16日、甲南神戸薬科、兵庫医科大学と産業技術総合研究所・テイスシエンジアリングリサーチセンターが組織する「メディカルサイエンス研究機構」(甲南Today No.12参照)の発足記念シンポジウムが、ホテルオークラ神戸で開催されました。文部科学省研究振興局研究環境・産業連携課技術移転推進室長 小山竜司氏、経済産業省・近畿経済産業局長 勝野龍平氏、兵庫県・産業労働部長 岩崎博氏、神戸市収入役 金芳外城雄氏から、全国的にも非常に新 しい組織の枠を越えた本研究機構へ大きな期待を込めた祝辞がありました。また兵庫工業会の小田茂会長は、地元企業との共同研究へとすそ野を広げるために、研究機構をバックアップすることを約束されました。

から「メディカルへ」明日を開くシナジー効果」をテーマに、それぞれの機関から連携研究を担う研究者による研究機構の方向性を示す講演がありました。本学からはハイテク・リサーチ・センター所長の杉本直己理工学部教授が、「ナノテクノロジーが拓く新しいメディカルサイエンス」の演題で、本学での研究成果などについて講演しました。動画も交え、一般の参加者にもわかりやすい講演となり好評を博しました。

本学の池上吉蔵理事長からは、異分野の研究者との交流が大きな成果を生んだ自身の体験が披露されました。このシンポジウムを受け、本研究機構の連携研究推進委員会委員長は杉本教授から、早速いくつかの連携研究が開始されようとしています。

「メディカルサイエンス研究機構」 発足記念シンポジウム開催

CONTENTS

2	WHAT'S NEW! KONAN 「メディカルサイエンス研究機構」 発足記念シンポジウム開催
3	甲南学園東京事務所移転のお知らせ 「2003年度、オール甲南の集いの」案内
5	特集 NETWORK KONAN 「つながり-KONANネットワーク」 フロンティアで 学ぶ「フロンティア」
7	来談者と直に接して学びたいのケア 臨床心理の現場
9	世界的な権威を迎えて挑む 生命科学の最先端 遠隔教育の可能性
11	Welcome! 誌上セミナー 国際都市神戸の足元から、 多文化共生を考えてみよう
13	世界とつながる！ WORLD NET KONAN 甲南生、教授の留学便り
15	創立より、いまへ受け継ぐスピリット 50th Anniversary クラブつながりレクレーション 文化会ダイナミック
17	PICK UP 高・中TOPICS 世界が認めた、クラブ活動の成果 「バークリー音楽院」 給費生をレポート
18	トワイ又甲南学園だより トワイ又生、世界に挑む 「サッカー部タリッ手遠征」
19	第一線で活躍中の卒業生にアクセス！ IT'S KONAN STYLE 順風満帆ではない人生 だから、いまの自分に出会えた 甲南フォーラム
20	



杉本直己教授の講演

表紙の絵

西井義見 画 「噴水」

西井義見さんプロフィール

1961年 甲南大学経済学部卒業
元自由美術会員

2003年の個展の予定
3月31日～4月5日
東京銀座ギャラリー舩小品展
9月3日～9日
大阪なんば高島屋10回記念個展
9月24日～30日
JR名古屋高島屋個展

次のURLでも作品集をご覧いただけます
<http://webgarou.net>





H H
E °
æ æ
y y
• •
TM 2

ì ì

ü ü
Ö Ö
ì •
TM

ì

y y y
• • •
TM 2 2

ì ì ì
Ö Ö Ö

ì ü
Ö Ö

家族

特集

フロンティアで学ぶユース・サイエンス

今回の特集では甲南大学のさまざまな最先端の研究を取り上げました。どんな活動を行っているかだけでなく、学生がフロンティアに触れながら学ぶことにはどんな価値があるのかまでお伝えしていきます。

来談者と直に接して
学ぶ心のケア

臨床心理 の現場



エントランスホールへの扉を開けると、水庭、六甲山系山麓の緑、真っ青な空、白い雲などが目に飛び込んでくる

甲南大学のフロンティアと言えば、カウンセリングセンターを抜きに語れません。1999年に竣工したこの施設は、心理療法のための面接室、遊戯療法のためのプレイルム箱庭療法室の設備、音楽療法室やグループワーク室など、現在、臨床心理のカウンセリングで考えられる最高の設備を完備し、兵庫県地域の方々はもちろん、広島や名古屋など、遠方の方にもまで利用されています。人間科学科の教授で、人間科学研究所の所長でもある森茂起教授のインタビューから、本学の臨床心理の現場に迫りました。

地域貢献と研究活動を兼ねる 最先端のカウンセリング施設

森茂起先生(以下森先生) カウンセリングセンターをご存じない人は、確かになぜ大学にこのような施設があるのかと疑問に思われるかも知れませんね。この施設は、当然、営利を目的としているわけではありませんが、かといって、純粋に地域貢献だけを目的としたものでもないのです。

「ほんとうに目的があるのですね。」

森先生 実は、ここで主に来談者のカウ

ンセリングにあたるのは、人間科学専攻の大学院生たち。つまり、本大学のカウンセリングセンターとは、来談者の援助というかたちで地域に貢献する場であるとともに、院生やスタッフの実践的な実習の場でもあるわけです。一見、半人前の院生がカウンセリングを行うなど、不謹慎なように聞こえるかもしれませんが、本施設の場合、5名の臨床心理士の資格を持つ教員がマンツーマンで密接な指導を行いますし、営利団体でないだけに、採算抜きで来談者の援助を考えられるという点から、皆さん安心していらっしゃいます。

カウンセリングセンターは、地域貢献と研究をつまぐ両立させた大学ならではの機関というわけです。

森先生 その通り。しかも、本施設は日本臨床心理士資格認定協会から第一種指定を受けているため、修士課程修了と同時に、臨床心理士の受験資格が得られます。今年はこちらで第一期生が臨床心理士試験に臨んでおり、25名が合格しました。

院生のうち25名という、かなりの合格率。本年度の試験は全国的に合格率が低い中、甲南がこれだけの合格率を出せた背景には、何か理由があるのでしょうか。

森先生 それは本カウンセリングセンター

カウンセリング設備、体制が整い、 研究のさらなる活性化を目指す

国内屈指と言われる設備、教授陣に加え、このような体制。甲南大学の人間科学専攻から、臨床心理士資格試験合格者が多い理由がよくわかりました。

森先生 設備と体制がそろい、かたちはこれで整いました。これからさらに研究を活性化させていきたいと考えています。

例えば、これまでは研究機関としての動きは確立できていませんでしたが、今後は人間科学研究所という組織を設け、心理療法の研究対象も、「トラウマ」「感性の変容」「子育ての困難」「心理療法」という4つの具体的なカテゴリーに絞って研究していく予定です。また、心のケアに携わるには人間を総合的に理解した上でないといけないので、哲学・文学・文化人類学などの周辺の思想領域も学びながら研究を進めて

いこうと考えています。このようにカテゴリーやアプローチ方法を明確化する中で、より深い研究成果へと結びつけていきたいですね。

目の前で最先端の研究が展開されることは、きょうの学生にとってもより大きな刺激となるでしょう。今後の人間科学研究所の動きがますます楽しみです。



『心の危機と臨床の知』(全四巻)は、文部科学省の学術フロンティア推進事業に採択された共同研究プロジェクト「現代人のメンタリティに関する総合的研究」心の危機の臨床心理学的・現代思想的研究」(平成10-14年度)の研究成果をまとめたものです。(新曜社・近刊予定)



利用件数が増えてきた理由は、やはり、これまでの地道な対応が評価され、認知が広まってきたというところでしょうか。

森先生 もちろんそれは大きい。しかし、一方で、さまざまな機関との連携を積極的に進めていることも大きいと思います。例えば、どんな外部機関と連携されているのですか。

森先生 「ひょうご被害者支援センター」との協力関係などいい例です。犯罪や事件によって、心に傷を負ったまま生活している人たちが同センターに援助を求めた場合、本施設もグループワークや個人相談などで心のケアに協力することになっています。このような窓口が増えたことにより、院生はいままで以上に、さまざまなタイプのカウンセリングに携われるというわけです。

臨床心理士試験合格体験記

素晴らしい先生方にご指導いただき合格できました

甲斐 暁子さん



絶対に臨床心理士の資格を取りたくて、甲南の人間科学専攻へ。入って驚いたのは、いい先生方が沢山いらっしゃったことです。初めてのカウンセリングでも、緊張する私に「一生懸命にやるのが、来談者にとって大事なのです」と言ってくれたことで落ち着いて臨むことができました。また、大学ではそのほかに地域のボランティアをすることもでき、さまざまなケースを経験してきたおかげで、資格試験のときに、それを生かすことができました。合格でき、いまは本当にうれしいです。

カウンセラー合格は、甲南で出会った方々のおかげ



辻野 美千代さん

人間科学専攻でよかったと思うのは、臨床心理学だけでなく、哲学や文化人類学など「人」を理解するための学問が幅広く学べたこと、それからやはり、カウンセリングの機会を多く持てたことですね。来談者との面接から学ぶことも多く、私も成長させてもらいました。だからこそ、当初はそれほど意識していなかった資格取得も目指してみようと思えるようになり、今回の合格につながりました。甲南で出会った方々が、資格へと後押ししてくれたと言っても過言ではありません。



世界的な権威を迎えて挑む 生命科学の最先端

2003年を迎え、理工学部の生物学各研究室がこれまで以上の活気を見せています。これは、生命科学の分野で世界的な権威であり、トロント大学名誉教授の増井禎夫先生を日本学術振興会の招へい事業により、お迎えしているためです。日本学術振興会の招へい事業とは、優れた研究業績を持つ外国の研究者を招へいすることを同会が援助するもので、甲南大学では生物学の園部治之教授を中心に増井先生の招へいを進めてきました。

先生は今後2年間、甲南大学を拠点に学術交流と共同研究に取り組まれる予定です。今回は、その活動に対する意気込みなどを直接お伺いしました。

ラスカー賞などで知られる研究者 増井禎夫先生を甲南大学へ招へい

日本学術振興会の招へい事業に私立大学が採択されたのは、今回の甲南大学がはじめてのこと。その理由は先生の知名度の高さによるところが大きいと思われるが、先生はどのような経緯で今回の招へいに応じていただいたのでしょうか。

増井禎夫先生(以下増井先生) 甲南大学とは、以前在籍していたというだけでなく、カナダに渡ってから名誉教授の称号をいただくなど密接な関係を持っています。学内の先生方とも親しくさせて頂いていましたから、今回、園部先生からお話があったとき、喜んで協力しますとお返事しました。

「このプランは2年越しで実施され、今年度は1月から3月、来年度は4月頃から3月までの間、増井先生にお越しいただき、生命科学分野の研究の活性化にご協力いただくという内容ですが、いま具体的に予定されている活動についてお教えください。」

増井先生 大きく分けると、甲南大学での共同研究」と、他の研究機関との学術交流」という2つの目的がありまして、後者については、1月14日に、「真の研究と廣の研究」というテーマで学内講演を行ったのを皮切りに、今後はポーツアイランドの理化学研究所や東京工業大学、慶應義塾大学、東京大学、日本薬学会などで講演会を予定しているほか、甲南大学の平生記念セミナーハウスで一泊し、若手研究者たちとディスカッションに語り合つというワークショップも予定しています。注：これらは1月中旬の取材時のコメントです。

知識・実験のノウハウを持ち寄り、各研究室で共同研究をスタート

共同研究についてはいかがですか。

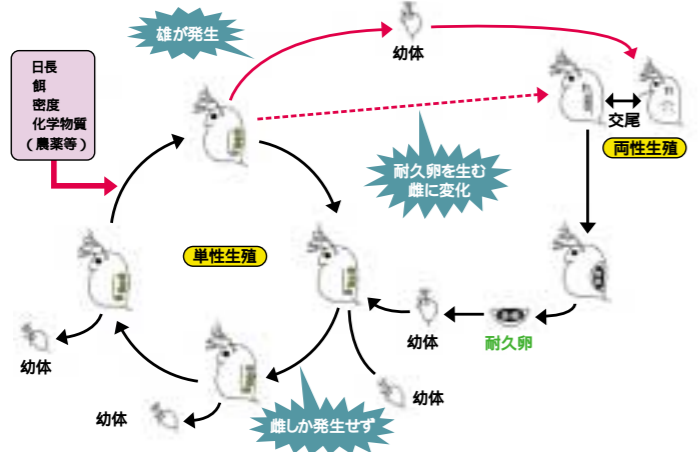
増井先生 実ほかなり楽しみにしています。といつも、私の専攻は細胞生物学で、これまでは主にカエルやマウスによる研究を続けてきたのですが、甲南では、新しい対象について研究していこうと考えていますから、その二つがミジンコです。

ミジンコはかっ

増井先生 そう。大きいモノでも体長5ミリ程度の甲殻類ですが、このミジンコは生命科学の研究対象として非常に興味深い特質を持っています。簡単に説明しましょう。

人間を含め、たいていの生き物は雄雌両方を生みます。ところがミジンコは、春から夏にかけて雌しか生まず、秋以降になると雄も生むようになるところが、とうやうやミジンコには、環境がよい時期には受精せずに処女生殖(単性生殖)だけ行い、餌の減少や気温の低下などを感じると受精して雄をつくり、種を活性化させるような特殊なメカニズムが働いているようです。そこにはなんらかのホルモンの働きがあるので、しょうが、1000年間、研究者たちはその

ミジンコの単性生殖から両性生殖への転換はどうして起こる!?



仕組みまでは解明できていません。私は学生時代からこのメカニズムを究明できれば、動物学者として第一級の仕事になると感じていたのですが、先送り、先送り、なんと40年以上も手をつけられなかつた笑。それが幸い、甲南大学の園部先生は甲殻類のホルモンの専門家というしやる。そこで話をしてみると、実は先生も偶然数年前から興味を持っていた分野といつこと得意投合しました。今回、園部研究室の院生やこの実験のために大学が招いた博士研究員と共に、ミジンコの単性生殖から両性生殖への転換機構の解析に挑戦することになりました。

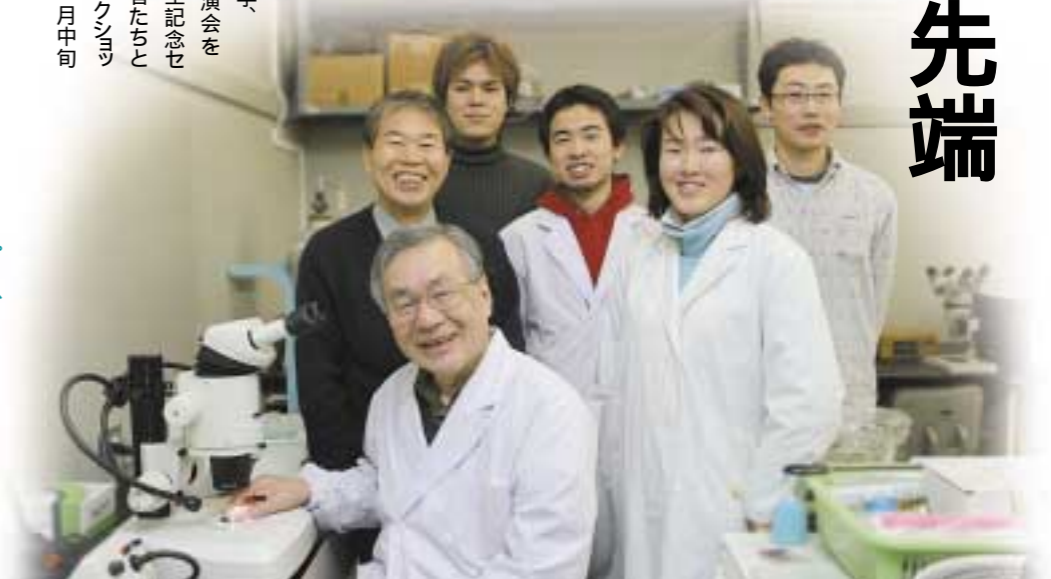
すでに、先生が来日される前から手紙などで研究は進められてきたとお聞きしています。

増井先生 MFという物質により、わざわざ餌を減らしたり、温度を下げるなどの手間をかけずに、ミジンコ本来のホルモンバランスを崩して雄が発生する状況を作り出せることがわかってきました。これはすでに成果として得られていますので、今後はこれをベースに、さらに研究を進展させていく予定です。川の汚染度や農業などの安全性を検査する環境指標動物にも指定されているミジンコ、その解明が進めば、環境問題に大きく貢献できるかも知れません。

その他の研究についてもお教えください。西方先生の発生学研究室とも共同研究の予定があるとのことですが。

増井先生 ーこちらはホヤを扱いて、細胞分裂を調節する機構を調べたいと考えています。ホヤという生物には皆さん馴染みがないかも知れませんが、脊索動物といって人間などと同じカテゴリーに入る動物です。そのため、複雑な構造を持つ哺乳類では調べにくい現象を、単純化して調べたいという実験によく用いられています。

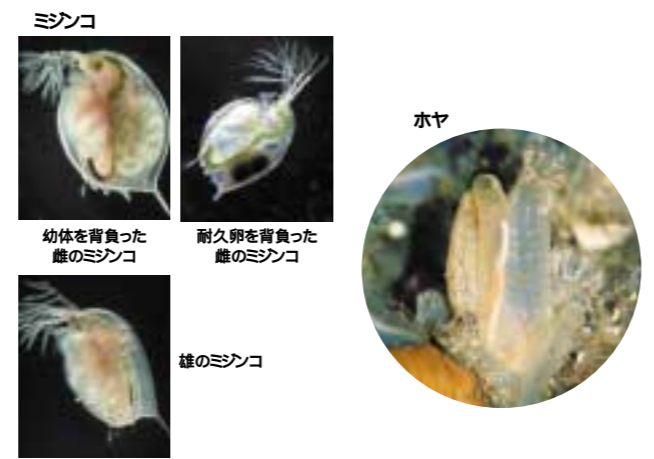
今回注目したいのは、ホヤの脊索(背骨の



増井先生と共同研究者達

増井 禎夫先生プロフィール

甲南大学助教授を経て、現トロント大学名誉教授、甲南大学名誉教授。甲南大学で13年かけて開拓した生物学のアイデアをカナダで発展させ、ラスカー賞、ガードナー賞などの国際的な賞を受賞。主な功績は、細胞が分裂し増殖する過程をコントロールする卵成熟誘起因子(MPF)および細胞分裂停止因子(CSF)という2つの因子の存在を明らかにしたところにある。



代わりに果たす部分の細胞は、リチウムイオンを含む海水に入れて発生させると、腸や胃のもとになる内胚葉という別の細胞に変わってしまつていふ事実。これは遺伝子を出す命令を、阻害剤がねじ曲げてしまったためですが、こうした観察を通じて、どうして細胞はこの器官になるというツールを持っているのか、それを破るとどういふことになるのかを見ていきたい。

ここでポイントがつかめれば、それを人間などの高等生物に応用していくこともできるのではないのでしょうか。

増井先生を迎え、ますます最先端の生命科学の領域に踏み込んでいく生物学研究室、来年度、学会を驚かせる事実を明らかにすることも夢ではありません。そして、ここが学ぶ学生たちにとっても、最先端の研究を目の当たりにする貴重な機会。科学者として将来を歩む上で、きつと何より貴重な経験となるのではないでしょうか。



時間、空間の壁を払う

遠隔教育の可能性

文部科学省が推し進める補助事業の一つに、「サイバーキャンパス整備事業」があります。これは、インターネットなどを活用し、国内外の大学と連携して教育研究を推進しようとする私立大学を、国がバックアップしようとする制度。甲南大学は本年度のプロジェクト申請でこの採択を受けました。採択校は全国から私大23校、うち関西は7校。

甲南大学は、近年のITブームに乗せられるのではなく、時間や空間の制限を超え、大学教育の可能性を拓ける具体的な方法として「いち早くITの活用」に目を向け、積極的に取り組んでおり、その実績が評価されたため、今回の採択となりました。

では具体的なプロジェクトの内容とはどのようなものか。授業に積極的にITを取り入れている経済学部の藤川清史教授、甲南大学の情報化を幅広くサポートしている情報教育研究センターの井上明講師のお二人に伺いました。

甲南大学情報化への歩み

1959年、理学部に経営理学科を増設し、大型電子計算機(IBM416型)を導入したことに始まり、1976年には現在の情報教育研究センターである電子計算センターを開設。私学でいち早く、先進の情報教育環境を充実させました。最近では、私立大学情報教育協会の「サイバーキャンパスコンソーシアム事業」に積極的に参加してWeb上で他大学と提携しているほか、学生が、いつでもどこからでも学内ネットワークにアクセスできる独自の「甲南S-net」も実現しています。

入った社会の教育、eラーニング

いま、教育の現場でキーワードになりつつある「eラーニング」という考え方が、ご説明いただけますか。

井上明先生(以下井上先生) 現在、なぜインターネットによる教育が注目を集めているのかと言います。これは単に、寝過しても家で授業が受けられるから便利とか、そういう理由ではないんです(苦笑)。現在は社会の入り口がどんどん早くなっていますから、そこで活躍するには、必然的にいかに早く学ぶかが要求される。言い換えれば、空いた時間をいかに利用するかなど、効率的に学ぶことが大切になってくるわけです。そこでこのeラーニングが目されているのです。これから社会で一歩先をいこうと考えるなら、どこか別の場所に居ながらにしてあるいは自分の都合の

いい時間を選んで、いつでも、どこでも、「誰でも」自在に学習できることが必要なのです。

藤川清史先生(以下藤川先生) 文部科学省などが大学にインターネットを利用した教育ネットワークの構築を推奨するのは、井上先生のおっしゃるような背景があります。甲南大学は特に震災後からeラーニングに積極的に取り組んできました。1997年からは、全国のうちでも早稲田、慶應と3校しか選ばれなかった通信放送機構と郵政省の連携事業の「マルチメディアキャンパス展開事業」にも携わってきたほどです。

甲南大学で実現したeラーニングの具体例として、どんなものがありますか。

井上先生 一つは、無線LANの環境ですね。キャンパス内に180カ所のアクセスポイントを設け、学内どこにいてもノート

開講されます。

これは旧制高等学校時代から親交のある武蔵大学と提携して行う取り組みで、甲南大学の学生には武蔵大学の授業を、武蔵大学の学生には甲南大学の授業を一部、インターネットによる中継で、自分の大学に居ながら受けられるようにするものです。技術的には、企業が遠隔地の支社同士で実施しているテレビ会議のようなものです。藤川先生 ビデオ録画ではありません。今、疑問はその都度先生に尋ねることができず、今回、甲南側で受けられる講義、金融工学では、金融商品のシミュレーションなどを行います。教授が行った数値計算をスクリーンに表示し、わかりやすく示すこともできますね。

大学教育の二つの限界として、これまでは学内に専門の教員がいなければ教えられないという現実がありました。しかし、この方法が軌道に乗れば、極端な話、学生は2倍の講義科目から関心に応じたものが選べます。実際、今回武蔵大学と交換して行

う講義は、いずれも、自分の大学では学べないものを用意しているんです。

なるほど、インターネット授業の計画は、これまでの大学教育を変えてしまう可能性を秘めていますね。

国内外の大学と連携の可能性も

井上先生 ただ、これはあくまで可能性の一部だけではありません。例えば、武蔵大学だけに留まらず、いくつかの大学に同じした取り組みを広げていくことも考えられます。実現すれば、お互いのカリキュラムが充実するということだけでなく、共同でシステムづくりに取り組んでいけるわけですから、より充実した環境を手に入れることができるでしょう。また、大学に居なくても、いつでもどこでも授業を受けられる環境を提供することも実現不可能ではありません。

しかし、どこにいても好きな授業が受けられるという夢の環境が現実のものとなれば、今度は大学の講義室に学生が集まらないのではないのでしょうか。



パソコンを開けば、甲南大学のネットワークにつながりやすくなっています。また、教員や学生のコンテンツ作成を専属スタッフがバックアップしているため、発信する情報コンテンツ自体も充実。学生がネットワークにアクセスすれば、授業の予習・復習に活用できる情報などを入手できます。

武蔵大学との遠隔授業がスタート

井上先生 さらに、来年度からは、経済学部で実験的に、インターネット授業も



Inoue Akira



Fujikawa Kiyoshi

藤川先生 いえ、現実問題としてそれはないんじゃないでしょうか。というのも、講義は何と言ってもライブが面白いわけですよ。直接触れ合うことで得ることも多々あるのです。教員だって学生の反応を見ながら、講義の筋書きをさまざまに展開していくわけです。

例えば、海外提携大学と甲南の教室をインターネットで結び、提携大学の教授に講義を行ってもらうことも可能性として考えられますが、その場合、甲南で海外の授業が受けられるからといって留学に興味はなくなりませんか?むしろ、さらに興味が増え、早く海外で授業を受けたいと思うでしょう。

甲南から発信する教育の可能性

藤川先生 甲南大学の考えるeラーニングとは、集合型の授業にとって代わるものではなく、ハイブリッド形式で、補助的に実施していくものでしょう。ただし、いままですべて甲南大学の教育資産をいかに次に結びつけていくか、いまのスタイルをいかによりよく変えていけるかの力を、eラーニングが握っていることは間違いありません。

井上先生 私は昨年、甲南大学に着任した時、情報システムの充実度にくしく驚いたんですね。今後、eラーニングによる新しい大学教育のカチ子、甲南が先頭立ちで発信していくことも十分可能だと思えます。

先生はこの人!



グローバル化の進む現代に通用する、国際感覚を身につけて欲しい



先生からのメッセージ

私のゼミでは、今回の「在日韓国人の生活と文化」をはじめ、「ユダヤ人とユダヤ教」「モスクとイスラム教」「中国人コミュニティ」などをテーマに、民族や宗教対立の問題を研究しています。学生には文献を調べるだけでなく、特にフィールドワークによる研究を指導しています。それは、新聞や雑誌など、マスメディアからは見えてこない真相を自分で解き明かしていく過程には、より大きな探究の面白味が隠れているから。これを味わい、学問への興味をもっと広げてもらいたいと考えています。また、研究成果は、国際化の進む中において学生にきっとプラスに働くものばかり。多民族都市はどうあるべきか、理想的な共生とはどうあるべきかなどについて考えていくことは、外国人移住者が増え、ますます多民族化していく日本の社会において、自分がいかに生きるべきかを示すカギとなるでしょう。

水島ゼミDATA

所属学生数 / 24名(3年次)

主な研究テーマ

- 巨大経済圏アジアにおける華僑・華人の活動とネットワーク
- 戦後補償をめぐる法的・政治的諸問題
- W杯から見る共催国“韓国”神戸のイスラム教コミュニティについて
- ユダヤ人迫害とホロコーストテロリズムの社会的背景

ゼミ生の証言

法学部法学科 3年次
左から、金村 実香さん、本山 真和さん、森本 麻実子さん、大部 晃司さん



自分たちと異なる価値観を 発掘していく研究が面白い!

インタビューを通したフィールドワークは、人の中に潜むアイデンティティを探究する発掘作業のようなもの。コツコツとした地道な作業ですが、新鮮な発見に出合う面白さがあり、つい、ハマってしまいます。例えば、外国人の方々を取材する中で、思いもよらなかった生活・文化、意識の違いを目の当たりにし、驚くことも少なくありません。異なる考え方や物のとらえ方に出会うと、いままでの自分の考えが偏ったものであることがわかり、世界が広がって見えます。また、こんな授業のおかげで、海外の時事問題を取り上げるニュースを見ていると、背景にどんな民族意識の違いや対立があるのかを考えるようになりました。



映画のワンシーン



ゼミ生の制作した映画「多民族刑事」でも、結婚を望む日本人男性と韓国人女性が、国籍の壁にぶつかるといふシーンが、普段の学びが詰め込まれている。



7月から長期にわたって続けられたフィールドワークの成果を発表する学生たち。研究内容に、ゼミ生全員が興味津々。

Seminar Theme

民族問題、ヨーロッパ統合など
現代政治の諸問題を検討

法学部法学科 水島 治郎 助教授

現在、世界の各地で生じている民族・宗教間の摩擦や紛争に焦点を当てて考察。水島先生自身は、政治学を専攻。オランダを軸に、比較の視点を重視しながら、現代ヨーロッパ政治を研究している。



ようこそ！知のテーマパークへ

Welcome!

誌上ゼミナール

国際都市神戸の足元から、 多文化共生を考えてみよう

在日外国人と向き合い、 民族アイデンティティを考察

日本と諸外国の交流が活発になり、国内においても「内なる国際化」が進んでいる。しかし、これはいまに始まったことではなく、日本の発展は、外国文化との融合に支えられてきたと言っても過言ではない。中でも甲南大学の地元、神戸は九州・長崎のように貿易の窓口として栄えた街。外国の文化とすっきり溶け込んだ姿が街並みからも窺える。水島ゼミでは民族や宗教の問題を研究しているが、何も広い世界ばかり目を向けるのではなく、日本内なる多民族化に目を向け、国際化する日本の縮図である神戸からその問題に迫ろうとしている。学生たちは6班に分かれ、華僑やイスラムユダヤなど、それぞれに焦点をあわせ、フィールドワークを通して調査・検証。年に4回の発表と討議を行い、在日外国人たちの民族アイデンティティを追究。いままで見えなかった実体を解き明かしていく。その集大成として、今年の学園祭では、自作映画「多民族刑事」マイリリーター・レポート」というユニークなカタチでの研究発表も行っている。

在日韓国・朝鮮人の 文化や意識を調査

今回発表した韓国民族・文化班が調査したのは、在日外国人の約40%近くを占める在日韓国・朝鮮人。在日コリアンの生活・文化について、

韓国と言えば、サッカーワールドカップの共催で日本と団結し、協力し合ったことは記憶に新しい。いま、お互いの国の関係は非常に親密度を増しているようだ。しかし、日韓の外交史を振り返ってみれば、このような付き合いができるようになったのも、ごく最近のこと。特に在日韓国人の方々にと

る。全さんがラジオに登場するようになったのは、1995年1月17日の阪神・淡路大震災まで遡る。日本語のわからない外国人がたくさんいる避難所で、入ってくるニュースは日本語ばかり。同胞に、特に在日1世の人たちに、自分の国の音楽や言葉、正確な情報を聞かせて安心させたいという想いが募り、朝鮮語、ベトナム語、中国語、ブラジル人に向けてポルトガル語、フィリピン人に向けてタガログ語など、8カ国語で情報発信できるラジオ局が開局されたのだ。班のメンバーはフィールドワークでこうした事実も突き止めた。

最後まで仲間と協力し合い、 多文化共生の深みに迫った

他の学生たちが感心する中、メンバーの一人は「今回、僕たちは半年をかけて6回のフィールド

ワークを行いました。初めてのことで聞きにくい話や、失礼かも知れない言葉に神経質になりながら、不安だらけでスタートしましたが、回を重ねるごとに取材に慣れ、文化の違いや外国人と日本人がどう共生していくべきなのかを少しずつ深く考えていけるようになったと思います。また、長期にわたってグループでそんな思いを共有し、支え合ってくれたからこそ、今回の研究レポートを完成させることができました」と、研究で学び得た思いを伝え、発表をまとめた。

神戸の歴史に深く根づく民族や宗教の問題。あたりまえに過ごしていると気づかないことを彼らは追究していった。フィールドワークによる人の出会いはお互いを豊かに成長させ、その結果、解決策に歩み寄ることができるといいます。水島

外国人の多い長田に根付いた、 8カ国語FM放送局を取材

次には、神戸でも在日コリアンが多く住む長田区で、8カ国語で放送している「FMわいわい」というラジオ局でキヤスターを務める在日2世の全さんを訪ねた。長田区には、在日コリアンをはじめ、ベトナム人、中国人、フィリピン人などアジアを中心とした28カ国の外国籍の人が住んでい

ては、過去の歴史を忘れるわけにはいかないが、そんな中、見せかけだけでなく、両者の共生関係は本質に進んできたと言えらるのだろうか。

世界の研究者が集まるユタ州で、
環境経済学の最先端を追究しています

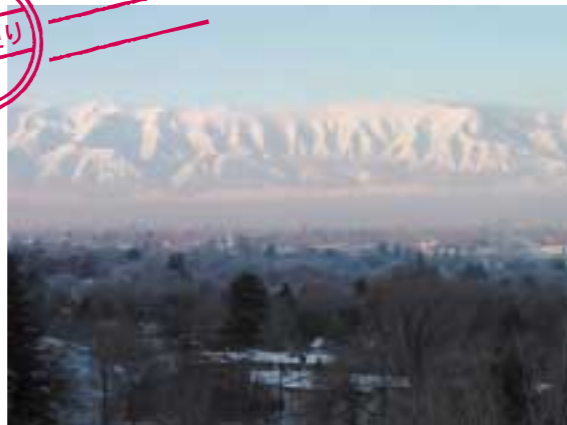
経済学部 小山 直樹 教授



私は現在、国外研究で米国Utah州の北端にあるUtah State University(USU)に滞在しています。この経済学科は、環境経済学の研究をしている研究者が比較的多く集まっていて、この分野における米国内の最新情報を学ぶには大変都合が良いところです。私の当初の目的は、国際的な環境協定に関する米国内の研究動向を調べることにありました。しかし、こちらに来てわかったことですが、米国における環境経済学のメインストリームはどうやら環境価値に関する実証研究にあるようです。これまでに参加した学内のセミナーは、どれも環境価値の実証分析に関連したものでした。一例をあげると、カナダにおけるスポーツフィッシング需要、政策当局の政策の変更 たとえば、入漁料の値上げ などによってどの程度影響を受けるか推計した研究報告がありました。これらの研究は、日本でも徐々に進められるようになってきたようですが、まだまだ導入段階です。そこで、私は滞米中の研究を環境価値の実証分析の方法論を学ぶことに切り替えることにしました。現在、鋭意勉強中です。

さて、USUのメインキャンパスは、冬季オリンピックで知られるようになったSalt Lake Cityから車で1時間半ほど北にあるCity of Loganに位置しています。ここCity of Loganは、Rocky Mountainsのふとこに抱かれたCache Valleyのなかにある人口5万人ほどの閑静な街です。メインキャンパスは、Loganの東端にあるOld Main Hillの上であり、丘の西端からはLogan市街とCache Valleyを一望できます。

USUは1988年に農業大学として創立され、現在はAgriculture, Business, Education, Engineering, Family Life, Humanities / Arts and Social Sciences, Natural Resources, Scienceの8つのCollegeから構成されています。主力はやはり農学部で、Aggie(農業大生)というロゴがUSUのシンボルにもなっています。また、現在の学生数は約22000人ほどですが、そのうち1000人ほどが海外からの留学生だということです。日本か



写真に写っている大変美しい山を、朝夕見て大学へ通っています。

らの留学生も結構いるらしいのですが、キャンパスでよく見かけるのはインドと中国、そして韓国からの留学生ばかりです。

ところで、Utahでは、だいたい9月の終わりごろに初雪があり、翌年の春5月ごろまで積雪が観測されるようです。したがって、Winter Sportsが盛んですから、スキーが好きな人にとっては天国かもしれません。ただし、ここは砂漠地帯なので、空気が大変に乾燥しています。おかげで、室内では加湿器を常時作動させていないと、ドアノブに触ったときたいいショックを受けることになります。このように、Loganの冬は寒くて乾燥していて、日本人には少々厳しい気候ですが、風景の美しさは文句無く抜群です。それに治安の良さは日本に匹敵するでしょう。

最後に、この土地に住む人たちの人柄について一言。物静かで親切、そしてみんな働き者。どこか日本人と共通する優しさをLoganの人々に感じます。

甲南大学では、学生たちの国際的な視野を養うために、「外国留学制度」をはじめ、多彩な国際交流プログラムを実施しています。また、専任教員の研究能力をいっそう高めるために、海外の大学などで学術研究調査を行う国外派遣を奨励しています。今回はこのような制度を利用して、留学・国外研究中の教授や学生が送ってくれたメールから、海外の学びや研究を紹介していきます。

甲南生、教授の留学便利
World University from the



私のバースデイパーティ(中央が松本さん)

ライプツィヒ大学(ドイツ)
での留学生活も、
5ヶ月目に入りました

文学部英語英米文学科4年 松本 久美子さん

私は英語英米文学科にもかかわらずドイツ留学を希望しました。それは、私には自信を持てる特技や趣味がなかったからです。何か、人より秀でるものが欲しかったからです。3年前に海外語学講座でドイツでの短期留学を経験しました。その時に「ドイツ語に私の学生生活を割いてみよう」と思いました。いま私はドイツ語の習得で悩むこともありますが、自分自身が何かに向かって進んでいる姿勢は、私の中で“意味”と“価値”があります。私が学生生活で得たものは、ドイツ語という打ち込めるものに出会えたことだと思います。

さて、こちらの大学では冬学期の試験ラッシュを迎えています。私も既にいくつかの筆記試験を受け課題を提出しました。私の受講している授業は留学生向けのドイツ語文法のクラスが4つ、英語のWritingのクラス、あと日本語学科の翻訳のクラスです。ドイツ語のクラスでは日本で習わなかったような文法や構文を扱っています。いまではようやく慣れてきたものの、日本語でも難しいドイツ語文法を、ドイツ語で理解し、習得するのは、時間がかかり困難なものでした。また、英語のクラスでも、ヨーロッパの人は、英語ができて当たり前、ということに驚き、自分が英語英米文学科だということにちっとも話せないことに恥ずかしくなりました。ドイツ語も英語もマスターできれば最高ですが、どのクラスでも、そのときの私の“成果”としてできるだけ単位はとって帰りたいと思っています。

ドイツに留学をして、私は「自分以上に上手なドイツ語を話す留学生はたくさんいる」ということを痛感しましたが、同時に人と比較する必要も感じなくなりました。きっと私にできることをしていけば結果は自ずからついてくると信じています。日本にいたときよりも自分のことについて考えることが多くなり、またドイツ語について悩むこともありますが、残されたあと7ヶ月、もっと自分自身に自信を持てるように、これまで以上にドイツ語習得に力を注ぎたいと思っています。

文化会 **グリークラブ**



1958年 / 関西民放テレビでの生番組に出演。

- 【創部】昭和26(1951)年
 【部員数】120人(2002年7月現在)
 【主な実績】
- 1951 大学開学と共に9名のメンバーで発足
 - 1952 新入部員15名を迎え、本格的に始動
 - 1953 第1回リサイタルを甲南大学講堂にて開催 / 関西合唱コンクールに参加
 - 1954 ABC朝日放送「リンレースミュージック」へ出演 / 第1回甲南学園音楽会が大産産会館で開催
 - 1955 兵庫県音楽コンクールで優勝
 - 1956 第1回演奏旅行(諏訪市民会館)、その後、全国各地に演奏旅行を行う
 - 1960 第1回神戸市コーラスコンクールで男声合唱の部一位
 - 1961 学習院大学との交歓演奏会開始
 - 1966 第15回記念リサイタルを東京と神戸で開催
 - 1967 甲南・関学・同志社・関大・立命館・阪大で関西六大学合唱演奏会を開催
 - 1981 創部30周年記念演奏会を神戸国際会館で開催
 - 1982 京大・九大・甲南ジョイントコンサートを京都会館で開催
 - 1985 現役・OB交歓合唱演奏会を大阪厚生年金会館で開催
 - 1987 オーストラリアへ演奏旅行 / トウンパー、プリズベン、ゴールドコースト、メルボルンにて演奏会を開催
 - 1991 創部40周年記念演奏会をいづみホールで開催
 - 2001 創部50周年記念演奏会を神戸国際会館こくさいホールで開催
 - 2002 第50回記念リサイタルを神戸方ホールで開催



第50回甲南大学グリークラブリサイタル(2002年12月神戸方ホール)記念の委嘱作品『リグ・ヴェーダ』を現役・OB合同で初演。

世代を越えたハーモニーに見た！ 連綿と受け継がれる甲南グリー精神

取材に出席された方：岡本晟さん('55年経卒)、西川陽一さん('59年経卒)、樋口孝幸さん('63年経卒)、大森清さん('64年理卒)、富岡隆一さん('66年法卒)、山西商平さん('68年文卒)、小田辰浩さん('69年法卒)、吉川繁年さん('69年営卒)、田邊忠夫さん('89年理卒)、大澤剛さん('94年経卒)、天野裕介さん('99年営卒)、学生 池田敦さん(経3、副指揮者)

01年9月、半世紀の歩みを記す記念演奏会が、神戸こくさいホールに満員の聴衆を迎え行われた。「親子以上の年齢差があるにもかかわらず、現役もOBもみんな同じ音なんです。受け継がれた甲南の音でした。心が一つになり、甲南ならではのハーモニーがホールに響き渡った時は感動でしたと指揮をした天野さんが想いを伝えてくれた。この世代を越えた合唱は、どのような軌跡を経て生まれたのだろう。

甲南大学グリークラブは、大学開学と時期を同じくして誕生した。当初、部員は10名足らず。混声合唱団として結成されたが、永きにわたる友情を築きたいという想いから、男性だけの合唱団として発足。初めは指導者もなく、多くの方々の参加・協力がなければリサイタルを開けない状態で、クラブの運営が軌道に乗るまで、数年を要した。発足当時の部員たちは、講習会に幾度となく足を運び、技術習得への努力を惜しまなかった。その甲斐あってか、やがて教会のミササービスに出てくれないかと声がかかるようになり、関西民放テレビでの生番組の出演も依頼された。

63年頃、グリークラブは部員数1000名を超える黄金期を迎えた。満足いく練習やリサイタルが行える体制がついに整ったのだ。「専門知識をもつ指導者が引き、本格的な発声による合唱がようやくスタート。神戸国際会館でのリサイタルでは、三宮駅までの列ができた。追っかけもいましたよ」

と、最盛期を懐かしむOBの様子にもその頃の充実感がうかがえる。

ところが70年を目前に、黄金期にも陰りが見られ始める。部員数は30名にまで減少したが、他大学との合同リサイタルを試みるなど、活動の幅はますます広がっていた。80年代に入り、部員数も1000名規模まで回復。各演奏会の開催も盛んになり、88年にはオーストラリアへの演奏旅行を実施。神戸市の後援を受けて、現地での演奏会も成功裏に帰国した。平成に入ると部員数は次第に減少していく中、第40回のリサイタルには創部初となる委嘱作品「男声合唱組曲 秋の流域」を初演する。

残念ながら、いまもグリークラブは、最盛期の勢いを取り戻したとは言えない。しかし、発足人である岡本氏「OB会初代会長は、寿岳文章先生作詞のすばらしい学園歌を真に口にするのは我々だ。歌詞に込められた言葉を理解し、伝えることこそグリークラブの使命」と、熱い想いを現役たちに託す。数々の困難な時代を乗り越えながら、甲南グリーメンたちには連綿とこの想いが受け継がれているのだろう。冒頭の記念演奏会にて、世代の違う多くの人々が見事に、歌声をまとめられた理由がわかる気がした。「先輩のグリーへの想いを聞けてよかった。僕たちも僕たちならではの音楽を作っていきたい」と語る現役の池田さん。この現役の情熱が学園に見事なハーモニーを響かせ続けることだろう。



1975年 / 対学習院大学・成蹊大学バレーボール定期戦20周年記念に集った三大学のOB(於甲南大学)

プレイヤー、マネージャー、監督、そしてOB チームが一つになったとき、ドラマが生まれた

取材に出席された方：吉原淳夫さん('55年経卒)、入江健蔵さん('60年経卒)、半井俊明さん('66年営卒)、南出正太郎さん('67年営卒、監督)、阿久沢亮さん('67年経卒)、服部美雄さん('69年経卒、OB会長)、志賀昌明さん('69年経卒)、南則夫さん('70年営卒)、村田幸雄さん('72年法卒)、演頭辰治さん('92年経卒、コーチ)、学生 中川優太さん(文2、マネージャー)

旧制高校には部がなかったためバレーボール部の活動は、まずコート作りから始まった。創立メンバーの吉原さんは「東館と講堂の間にある中庭の石を拾い、草を抜き、ボールも自分たちで立てたんです」と振り返る。経験者は2人だけだったが、チームはみるみる成績を伸ばし、2年後には4部から3部へ、5年後には2部に昇格。60年には2部優勝を果たす。64年には全優勝し、ついに1部リーグ入りも果たした。当時の干渉タッカー、半井さんは「頼宮さんがキャプテンで練習は厳しかったが、目標があり、充実していた」と述懐する。頼宮さんとは、後に25年間にわたり監督としてチームを支え、今日の部の隆盛の礎を築いた。情熱の男、頼宮英男さんのことだ。その練習のハードさは現監督の南出さんが「合宿では1日で体重が3キロも落ちた」と言うほど。阿久沢さんは当時の強さを「常勝の関学に西日本インカレで勝ち、準優勝したことが印象に残っている」と述懐する。

その後、66年には一度2部に落ちるが、試合中に小指を骨折しながら何食わぬ顔でフルセットを戦った村田さんらの活躍で、71年には1部に返り咲く。この復活劇を陰で演出したのが、マネージャーと言われた志賀さんだ。戦力を立て直すため、当時高校の干渉だった村田さんをは

じめ選手集めに奔走したのだ。

当然、次の目標は1部優勝。だが部はその後低迷期を迎える。84年には再び1部復帰を果たすが、優勝という宿願を果たしたのは95年。阪神大震災という試練に見舞われ、大学は瓦礫の山となり、学連委員だった瀬野保さんを失ってしまう。悲しみに包まれ、当時監督を務めていた頼宮さんも病床にあつた。愛知大学の好意で練習場所は確保できたもののコンディションは最悪。しかし、チームは破竹の9連勝で1部優勝。翌日、それを待っていたかのように、頼宮監督の訃報が入る。選手たちはこの2人の遺影と共にブレイスし、秋季1部リーグ連覇、全日本インカレではベスト8に食い込む健闘を見せた。

それから8年、現コチの演頭さんは「私には、試合にせり負け、2部に落ちた経験があります。その時痛感したのが、先輩方がこれまで実践してこられた、チームを思いやる心から生まれる団結力と厳しい練習が培う精神力の大切さ。これを肝に銘じ、頼宮監督が夢見ていた全国制覇を実現したい」と力強く語る。現役のマネージャー・中川さんもその言葉に「ええ、リーグ優勝が先決ですが、目標は常に高く持っていたい」と言葉を確かめるように話す。彼ら現役の選手たちが、50年にわたってつないできた情熱というボールを受け、これからどう戦っていくか、見守っていきなさい。

体育会 **バレーボール部**



- 【創部】1951年
 【部員数】17人(2003年2月現在)
 【主な実績】
- 1951 バレーボール創部
 - 1952 関西大学バレーボール連盟・4部に加盟
 - 1954 秋季4部リーグ優勝、3部昇格 / 第1回成蹊大学定期戦
 - 1955 第1回学習院大学定期戦
 - 1958 全近畿バレーボール選手権大会3位
 - 1959 春季3部リーグ入替戦に勝ち、2部昇格
 - 1961 春季2部リーグ優勝 / 6人制リーグ始まる
 - 1963 秋季2部リーグ、天理大学と同率首位となるもプレイオフで惜敗
 - 1964 春季2部リーグで完全優勝、初の1部昇格 / 関西学生選手権準優勝
 - 1965 西日本学生、準優勝 / 関西インカレ3位
 - 1966 2部降格
 - 1970 全日本インカレベスト16
 - 1971 春季3部リーグ優勝、1部復帰
 - 1972 2部降格
 - 1975 3部降格 / 秋季3部リーグ優勝も3部残留
 - 1981 秋季3部リーグ優勝
 - 1983 秋季3部リーグ優勝
 - 1984 春季3部リーグ完全優勝で2部昇格 / 秋季2部リーグ全勝優勝、1部昇格
 - 1985 兵庫インカレ優勝
 - 1986 関西インカレ準優勝
 - 1990 ビーチバレージャパン近畿大会優勝 / 兵庫インカレ優勝
 - 1991 2部降格
 - 1992 春季2部リーグ全勝優勝、1部昇格 / 関西インカレ準優勝
 - 1993 西日本インカレ3位 / 兵庫インカレ優勝 / 全日本インカレ16位
 - 1994 西日本インカレベスト8 / 兵庫インカレ優勝
 - 1995 春季1部リーグ初優勝 / 西日本インカレ3位 / 全日本インカレベスト8進出 / 秋季1部リーグ優勝連覇
 - 1996 西日本インカレ準優勝 / 関西ビーチバレー優勝 / 関西インカレベスト8
 - 1997 関西インカレ準優勝 / 西日本インカレ3位
 - 1998 関西インカレ3位
 - 2000 関西インカレ3位
 - 2001 春季2部降格 / 秋季1部復帰 / 創部50周年記念式典挙行
 - 2002 秋季1部リーグ4位 / 全日本インカレ16位



トゥレーヌ生、世界に挑む

トゥレーヌ甲南学園では、1999年度から、イギリスの名門校ダリッチ高校と、サッカーの親善試合を行っています。今回は、この試合に参加したサッカー部キャプテンの平井数磨君の体験記をご紹介します。平井君は、2年前にも、ダリッチでの試合に出場、0-1で敗れてしまい、そのリベンジを志していました。

ダリッチ高校は、伝統あるパブリックスクールで、甲南高等学校やトゥレーヌ甲南学園では、生徒の交換留学プログラムも実施しています。



後列右から4人目が平井君▶

『サッカー部ダリッチ遠征』

トゥレーヌ甲南学園高等部3年生 平井数磨君

トゥレーヌ甲南学園ではサッカー部に入学しました。入学当時の部員は26人で、一番活気のあるクラブでした。当時、監督はいつも目標はダリッチだと言われ続けてきました。ダリッチ戦は、私たちにとって一番大事な試合だったので。

3年生になりキャプテンを任された私は、大いにやる気に満ち、楽しく活気のある部にしていこうと思いましたが、春夏・秋と順調に試合を勝ち続け、個人がどんどん力をつけ、7人制大会ではベスト8に入るなど活躍することができました。しかし、冬休みを終えたとき、予期せぬ最悪の事態が起こりました。いまままで教えてくださった監督が、急に退職され、ダリッチ戦も危うくなったのです。私たちはミーティングを開き、「最後までしっかりやろう。」という時こそしっかりやろうと皆に呼びかける。皆も賛成してくれ、一段と活気のあるクラブへと変化していききました。そうこうするうちに、ダリッチと試合ができるといううれしいニュースが入りました。私たちはとても喜びました。

試合は、2月1日と2日の2日間です。ダリッチに行く前日、学校で壮行会をしていただき、一段と士気が揚がり、いざダリッチへと出発しました。ダリッチでは、相手チーム一人ひとりの家で、ホームステイしました。翌朝皆にどうだかを聞くと、とても優しくしていただいたようで、1週間くらい、いいときだわ。」などと喜んでいました。もちろん私のステイ先の家庭もとても親切で、2年前に行ったときより少しは上手くなった英語で交流できたと思います。そしてとうとう試合の時がやってきま



世界が認めた、クラブ活動の成果 「パークリー音楽院」 給費生をレポート

甲南高等学校では知識を積み重ねるだけでなく、創造力豊かな人間性を育むため音楽・美術・書道・体育などの実習にも力を入れています。その一環であるクラブ活動にも、積極的に取り組み、例えば、フランスアンサンブル部では、昨年の夏も、神戸文化ホールで行われた「Japan Student Jazz Festival」で兵庫県知事賞を受賞するほどの好成績を残しています。今回はそんなフランスアンサンブル部の活動を通して、演奏技術の評価され、世界的に有名なアメリカの「パークリー音楽院」に給費生として留学した3人の生徒をレポート。世界に触れてさらに広がった音楽活動への意欲などを語ってもらいました。



上 / 街並みの一部がそのまま施設となっている「パークリー音楽院」
下 / 世界中の音楽好きがここで学んでおり、日本人も少なくない

本紹介
子規山脈 師弟交友録
日下徳一 著
朝日新聞社
¥2,500(税込)

高・中にはお母さん方のためにホトギス主宰、稲畑汀子先生が指導されている甲南俳句・紅梅の会があります。本書は長らく高・中で教えておられた著者が、その機関誌「紅梅」に19回にわたって書かれた子規とその門弟たちの師弟愛や友情の物語を、子規没後100年を記念して朝日新聞社が刊行したものです。漱石、虚子、碧梧桐、紅緑たちと子規との麗しい交友が、俳句やエピソードをふんだんに交えて面白く語られ、一般の読者や大学生はもちろん、高・中生にとっても絶好の子規入門の書です。

甲南体験 NOW

よく学び、よく知り、よく考えよう
パークリー音楽院では、
どんな体験ができましたか？

まさかの給費生資格獲得
自分の耳を疑いました

日比津 音 甲南高校3年生
ティン・サクス 写真

2年生の夏に催された「Japan Student Jazz Festival」は忘れられませんが、甲南が見事団体賞を獲得できただけでなく、最後に発表されるパークリー賞に僕と李君が選ばれ、給費生の資格をいただけることになりました。もう喜びは2倍以上！それで昨年の夏、パークリー音楽院のサマープログラムに参加することになりました。

現地では思い出深いことですか？ サックスの先生がインディマンのレス・スミス、音楽によるコミュニケーションの可能性を熱く語ってくださったことかな。春から甲南大学に進みますが、ジャズ研究会で仲間と演奏の楽しさを分かち合っていました。

ピアノ練習室は1000以上！
納得いくまで練習できた

李 祥太君 甲南高校3年生
ビリン・写真中央

パークリー音楽院って、さすが世界に名を馳せているだけあって、環境が驚くほど整っているんです。例えば、ピアノを設置した防音室なんて、ズラリと100部屋くらい！おまけに、日本なら近所迷惑で遅くまで練習できないんだけど、希望者は深夜2時からいまで練習できるシステムになっていて、嬉しくてつい、時間を忘れて練習していましたね。また、学校の周りでは、日本では考えられないくらい至



るところでジャズのライブが開かれているので、これも刺激的。おかげで海外にも興味があり、4月からは甲南大学のERNA総合クラスに進むことになりました。周りのレベルの高さに触れ、自分の演奏が変わった

今井尚樹君 甲南高校3年生
ウッド・ベース 写真左

僕は中学3年の夏に賞をいただき、高校1年次に渡米。世界的に有名な音楽大学なので期待もこのプログラムに臨みました。現地へ行くと、世界中から音楽に打ち込む人たちが集まっている。しかも自分と同じ年の人が上手に弾いたりするので、ホントびっくり。いい刺激を受けたと思います。また、普段は音楽の理論を習う機会が少ないうえ、講義を通して学べたのも貴重な体験。ベースのラインの作り方などを理論つけて考えられるようになった。これで度胸がついたこともあり、翌年には、イギリスの提携校、ダリッチ高校への留学にも挑戦したんです。

した。ダリッチ校のグラウンドは、とても大きく、芝など学校のものとは思えないほど美しく、天気も快晴、最高のコンディションでした。長い笛がなりました。2年前の屈辱を思い出し、元氣一杯に走り出しました。前半10分頃、なんと甲南が先制点をあげました。私はうれしくて、飛んでチームメイトに駆け寄りました。勝てると思いましたが、しかし、この考えは甘く、前半一気に3点も取られてしまいました。私が率いるディフェンスがめちゃくちゃにやられました。そして後半、2点差なら何とか返せると思い、何度もうるに迫るのでありますが、あと一歩が出ず、結局3点を追加されて1-6と大敗を喫しました。

サッカーの本場イギリス人は、本当に紳士的で、試合が終わると「ありがとう」と一人ひとり握手していききました。「また試合しよう」と言われて、私は「今度は任せた」と後輩に望みを託しました。とても悔しいゲームだったけれど、それ以上によいものが得られたと思います。卒業まであと少しですが、私たちの挑戦は後輩に受け継がれ、いつまでも続いていきます。

今回は、キャリアコンサルタントとして学生や創業者の進路アドバイザーを務めておられる本田勝裕さんにインタビュー。
いまの職業に就いたきっかけやそこに込められた思いをお話いただきました。

順風満帆ではない人生 だから、いまの自分に出会えた

本田 勝裕さん 1985年経営学部卒業



瀬戸貴史さん(理3)の相談を受ける本田さん。

社会人としての私の人生って、実は挫折からのスタートなんです。最初の挫折は、大学での就職活動のとき。当時の私は「スミシ」で、広告研究会に所属し、将来はラジオの番組を作るんだと、それしか考えていなかったんです。いま、考えても、なぜそんなに自信があったのか。(笑)。とにかく「スミシ」社しか受けなくて、就職部の方になんか心配されました。結果はやっぱ採用で、将来どうしようかってこのときはかなり結構悩みましたね。

バイトに行っていた学生援護会で入社試験に合格したので、その後は編集などの仕事をすることになったのですが、「ニコ」を7年前に退社。あまから手帖の版元、株式会社クリエテ関西に広告企画部長として転職したところ、「ニコ」での挫折(笑)。仕事がつまらなく、体調も悪くなって、続けられなくなりました。しかし、これを契機に独立した私に、編集者などを養成する専門学

校から、たまたま講演依頼がありました。そこで私が見たのは、厳しい現実ばかり教えられてすっかり希望を見失ってしまった学生の姿でした。そのとき「一体誰が学生たちに仕事の楽しさを教えるんだろう」と思ったわけです。そこで私は学生たちに出版・編集の現場を伝えるため、出版社などを片っ端から訪ね、編集に関する最新の情報や知識を調べて講義に臨みました。「何か自分ができることを」と思ったら、自然に動いていきました。

キャリアコンサルタントとして活動を始めたのは、そのとき感じた思いがモチベーションになっていきました。昨年は進路などのテーマについて、大学などで年に講演を160本こなし、朝日新聞などで原稿を111本書き上げました。忙しいですが、学生が自分の目的を見つけ、輝いていく姿を見るのは、単純に嬉しい。振り返ってみると、数々の挫折も、そう悪くはなかったんじゃないかなって思います(笑)。

PROFILE

1985年に甲南大学経営学部を卒業後、(株)学生援護会に入社。編集、営業、人事コンサルティング、セミナープロデュースなどに携わる。1997年に独立。現在は企業、大学、行政などで講演するほか、新聞、雑誌、Webなどで執筆活動を行う。また、就職支援Webサイトおよびメールマガジン「ポンタの就職ゼミナール」を主宰。

本田さんの甲友録

- 関 基久さん
1980年経営学部卒業
ジャズクラブ
「ロイヤルホース」オーナー
- 高見 篤さん
1983年経済学部卒業
新光証券株式会社
インベストメントバンキング第三部長
- 重田 剛志さん
1995年経営学部卒業
コンピューターマネージメント株式会社

卒業生 TOPICS

甲南OBの著書をピックアップ!



ネットの中の詩人たち2

島 秀生 著
土曜美術社出版販売
¥1,238(税別)

著者が運営する詩の投稿サイト「MY DEAR」に集まった作品紹介シリーズ第2作。誰もが気軽に取り組めるWebならではの自由な詩の世界が楽しめます。

島 秀生さんプロフィール

1955年大阪府生まれ。1978年甲南大学経営学部卒業。日本ペンクラブ、日本現代詩人会、日本詩人クラブ、関西詩人協会に所属。ネット詩誌「MY DEAR」主宰。

甲南フォーラム KONAN FORUM ダイジェスト



体育会祝勝会・文化会顕彰会および 父母の会課外活動表彰式

文化スポーツボランティア活動などすぐれた業績を挙げた学生や学内団体に贈る、学生部長特別表彰と父母の会金甲賞が、次のとおり決定しました。授賞式は、2月25日、学生会館1ケトルームで行われ、小林均学生部長および小倉宏之父母の会会長から、賞状と助成金が贈られました。

- 【学生部長特別表彰】 体育会釣クラブ 体育会自動車部 体育会ライフル射撃部 西田ますみさん(経営2) 体育会ヨット部 谷垣美由紀さん(理工2) 小西純子さん(文1) 体育会陸上競技部 福山茜さん(経営2) 横溝由奈さん(文1) 杉山佳美さん(経営1) 田口恵理さん(経営4) 文化会書道部甲墨会
- 【金甲賞】 体育会ゴルフ部 平松賢齊さん(経済4) 体育会フィギュアスケート部 岩城久実さん(法4) 体育会ボートセイリング部 大場敬仁さん(理3) 文化会JANZ研究会 「ギリギリキリ」岸本和可子さん 平野清華さん 藤本亜矢子さん(法4)

文化会表彰式

11月24日第38回甲南大学大学祭音楽祭終了後、この一年間顕著な活動を行った文化会の団体に次の各賞が贈られました。

学長杯 / 古美術研究会
理事長杯 / 女声合唱団マロロン
父母の会会長杯 / 交響楽団
学生部長杯 / 児童福祉研究会
文化賞 / 歌舞伎文楽研究部
KSWL、人文地理学研究会

体育会3団体に、体育賞

12月21・22の両日、滋賀県高島郡マキノ町の奥琵琶湖マキノパークホテル&セミナーハウスで、第41回体育会リーダーズキャンプが行われ、今年度、その活動・運営および戦績が優秀であった次の3団体に、小林均学生部長から体育賞が贈られました。

弓道部 / 関西学生弓道選手権大会女子個人準優勝(井口ありさん(理4)など)
ライフル射撃部 / 全日本学生ライフル選手権大会個人8位(西田ますみさん(経営2)など) 陸上競技部 / 日本学生陸上競技対校選手権大会走り幅跳び6位(福山西さん(経営2)など)

岩城久実さんが兵庫県 体育協会優秀選手賞を受賞

体育会フィギュアスケート部 岩城久実さん(法4)は、2002年度財団法人兵庫県体育協会優秀選手賞を受賞しました。この賞は、国際大会出場者や団体で3位以内に入賞した選手を表彰するもので、岩城さんは、昨年1月、北海道・帯広の森スピードスケート場などで行われた第57回国民体育大会冬季大会の成年女子で3位に入賞、今年度も選手として兵庫県から派遣される予定。表彰式は、2月5日、兵庫県立総合体育館で行われ、メダルが贈られました。



体育会50周年記念事業の実施

体育会は、2003年度50周年を迎えます。体育会では50周年記念実施委員会を設立し、記念誌の刊行と、式典の挙行の準備を進めています。

式典では、スポーツを通して、甲南大学の名を広めた方を表彰する予定です。在学中または卒業後に活躍されたOB・OG、在学生を推薦してください。自薦、他薦を問いません。ホームページ http://plaza25.mbn.or.jp/konan_u_athletic/index.htm でも、式典などの情報を公開しています。

体育会50周年記念実施委員会委員長 西村繁治
TEL 078-452-2696
携帯 090-1249-4553
E-mail athletic@cl.mbn.or.jp



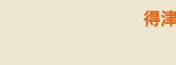
100%自分を出きる
個性タイプ別
就職面接完全攻略
主婦の友社 1,200円(税別)



甲南大学の
教員が執筆した
新刊
レビュー



明治地方財政史 第三巻
高寄 昇三(経済学部教授)著
勁草書房 ¥5,000(税別)



日本経済:実証分析のすすめ
小川 一夫
得津 一部(EBA高等教育研究所教授)共著
有斐閣ブックス ¥2,800(税別)



トラウマ映画の心理学
映画にみる心の傷
森 茂起(文学部教授)著
森 年恵 共著
新水社 ¥1,900(税別)



黒人王、白人王に謁見す
井野瀬 久美恵(文学部教授)著
山川出版社 ¥1,300(税別)

甲南大学 社会人講習会、言語講座「開講」

【開講日時】4月26日から7月5日(予備日7月12日) 毎土曜日(全10回)

10:30 ~ 12:00	13:00 ~ 14:30
初級英会話 【Bailey】 初級英会話 【Madore】	中級英会話 【Bailey】 中級英会話 【Madore】
中国語入門 【石井】 中国語コミュニケーション(初級) 【吐山】	9:40 ~ 11:20(休憩時間10分間含む) ドイツ語初級者【大澤・Suita】 (入門～半年程度学習された方)
9:30 ~ 12:00(休憩時間15分間含む)	10:35 ~ 12:15(休憩時間10分間含む)
フランス語会話・中級 【村尾・DEZ】 (1～2年学習された方)	ドイツ語既習者【大澤・Suita】 (3年以上学習された方)
フランス語会話・上級 【DEZ・村尾】	

英会話クラスについては、4月19日にクラス分けのためのレベルチェックを行います。レベルチェックの結果、お申込みのクラスに変更が生じる場合もあります。

【対象・定員】一般社会人および学生(高校生以上) 各クラス20名まで(ただし、受講希望者が10名に満たないクラスは開講しないこともあります)

【開催場所】6号館マルチメディア教室

【受講料】15000円+テキスト代(約3000円)(税込のみ) フランス語会話のみ25000円+テキスト代(約3000円)(税込のみ)

【受付期間】4月1日(火)～4月9日(水) 消印有効(往復はがき先着順)

公開講座

「知能情報処理と知的情報ネットワーク」21世紀をささえるインターネットと並列処理技術「コンピュータの知能について」個人認証方法 署名認証を中心として / 音と音楽の感性 情報ノ人に優しい知的システムの開発をめざして / 人間の情報処理のしくみを探る / 高度なマルチメディア情報通信の時代の到来

【開講日時】5月17日から6月21日 毎土曜日(全6回)(13時30分～15時)

【定員】200名(社会人対象)



誌上で激論
今回のテーマ
甲友ファミリーの絆、あなたは
どう思いますか？

このコーナーは、読者の皆さまから寄せられたお便りによって構成していきます。今回は、前回特集した「集まれ! 甲友ファミリー」についてご意見をいただきました。

横浜に住んでいますが意外なところで甲南出身の方に会いとても良くしてもらったことがあり、甲友ネットワークの素晴らしさを感じました。甲南が母校で良かったと思います。(昭和五十二年卒・女)

甲南と学習院の卒業生が合同で同窓会を開いているという記事がありました。そこに出ていた早川くんはクラブの後輩です。懐かしくまた頼もしく感じました。特タネ2は母校を誇らしく感じました。特タネ3には親しみを感じました。(昭和六十一年卒・男)

私も実弟、実弟の妻、実妹の夫とすべて甲南大を卒業した甲南ファミリーですので、大変共感するとコメントが多く、改めて甲南の良さを感じ出させてもらいました。(昭和四十六年卒・男)

正直(絆の強さに?)驚きました。文中にあった芋粥の式に仲間が集まるといつかは事実ですね。私の個人的な体験では出張で訪れた筑波で甲南の印象を聞いてみる(ブルジョアを感じて)という意見がありました。(平成十一年卒・男)

【開催場所】5-11講義棟(ただし5月31日は5-11講義室)
【講師】甲南大学理工学部情報システム学科 教授・岳五(ぼけ)

【受講料】3000円(6回分、テキスト等資料代・傷害保険料、消費税を含む)

【受付期間】4月14日(月)～4月22日(火) 消印有効(往復はがき先着順)

NEW

小学校高学年のための「親子で楽しむ生物観察」(仮題)

【開講日時】5月10日から7月19日までの土曜日(全5回)(10時～12時)

【定員】35組(小学校5・6年生とその保護者1名)

【開催場所】甲南大学西校舎15号館3階

【講師】甲南大学理工学部生物学科教授 園部治之(ぢか)

【受講料】5000円(5回分、材料費・傷害保険料、消費税などを含む)

お申込みの詳細については、広報室までお問い合わせください。

TEL(078)435 2314 FAX(078)435 2546 e-mail: kohnou@adm.konan-u.ac.jp

2003年度一般入学試験志願者数 前年比5.7%減の2万5364人

2003年度一般入学試験志願者総数は、2万5364人で5.7% (1543人)減となりました。経営学部(4.4%増)以外の4学部はすべて志願者を減らしています。

2004年度から大半の国立公立大学がセンター試験で5教科7科目を課すことから、受験生が私立大学を多く併願するのではないかと見られましたが、深刻な経済不況が受験生の併願数を絞り込ませたものと思われる。関西の主要私立大学はほとんどが5～10%志願者を減らしました。

一般入試志願者数(人)

	2003年	前年比
文学部	6,469	94.5%
理工学部	3,636	89.1%
経済学部	4,987	91.5%
法学部	4,616	90.3%
経営学部	5,622	104.4%
EBA 経済学部	15	125.0%
総合 経営学部	19	172.7%
合計	25,364	94.3%

2月28日現在。追加合格に伴う出願取り止めによって、数が変更になることがあります。

全学部制覇のご家族があられるとは、正直驚きでした。(昭和四十七年卒・女)

義姉と姪が甲南卒です。そして去年、姪が甲南ボーイと結婚しました。4名のうちも甲友ファミリーです。(昭和四十三年卒・女)

私は三菱重工業(神戸造船所で勤務しています)が、甲南OGは結束が固く、入社以来定期的にイベント、宴会などが行われ続けています。(昭和三十九年卒・女)

今後モグルメXONANを掲載していただけると楽しいと思います。またの機会に続編をお願いいたします。(昭和三十六年卒・男)

甲南に対しての想いがほかの卒業生、在校生の方々と同じだと実感しました。それから私の親戚には甲南卒業生が一人だけなので羨ましかったです。(平成十年卒・女)

甲南OB・OGの人数とつながりが面白い。興味深い特集だったので、今後とも、視点を変えながら続けて欲しい。(昭和三十四年卒・男)

伊東先生の記事を読み、学生たちが羨ましく感じました。(平成一年卒・男)

誌面作りに対する「意見・」感想

震災後、甲南大学もずいぶん変わったことでしょう。どのようになっているのか、キャンパスの写真も載せてもらえるといいです。(不明)

学術的な成果の発表などをしてもうえませんが、(平成三年卒・男)

企業で活躍する卒業生の動向を特集して欲しい。(不明)

図書館をはじめ、卒業生が使える施設の紹介をして欲しい。大学を気軽に訪れたいようなトピックス記事もお願いします。(平成十年卒・男)

現在の甲南生の方や卒業生の方たちの記事が自分にも元気を与えてくれました。今後は甲南生のスポーツ、文化における活躍状況について知りたいです。(昭和五十三年卒・男)

旧制甲南高等学校
バスケットボール部史発刊



旧制甲南高等学校
バスケットボール部史

甲南高等学校・同窓会総会の「案内」も二度振り返そう「高校時代」

【日時】5月25日(日)午後1時～午後5時

【場所】甲南高等学校

【会費】1000円

【内容】

恩師による模擬授業(午後1時)
現役フランスアンサンブル部による演奏会・同窓会総会(午後2時)
講演/須磨久善氏(高校18回卒業)葉山八(トセタ)院長、NHKテレビの「プロモーター」で、奇跡の心臓手術に挑む、と、タイトルで放送された反響を呼んだ、「冠動脈バイパス手術、心臓バスタ手術」の世界的権威(午後3時)
懇親「ル」(午後4時)～5時
【来場時の注意】駐車場はありません。電車バスをご利用ください。

甲南高等学校ホームページ
http://www.hs.konan-u.ac.jp/

EVENT SCHEDULE

- 4月
- 2003年度入学宣誓式(父母の会新入会員歓迎会)(1日)
 - 新歓祭(11日)
 - 国際交流センターの「留学フェア」(2・3日)
 - 自治会オリエンテーション(入3日)
 - 2003年度講義開始(4日)
 - 受講届受付(11日)
 - 第3回オール甲南の集(20日)
 - 甲南学園創立記念日(21日)
 - 第48回甲南大学対学習院大学運動競技総合定期戦開会式(26日)
 - 前期社会人講習会、言語講座(26日～7月5日)
 - 第30回甲南キャン(3～5日)
 - 第34回図書館祭(12～16日)
 - 第132回現代講座
 - 自治会中央委員会選挙(予定)

5月

次回テーマ

今回は本誌でも特集した「最先端で学ぶ」ということについてご意見をいただきました。と思います。テーマは、「甲南は最先端の研究をどう生かすべきか」。生命科学の研究成果を「一般にもわかりやすく公開講座として講演して欲しい、インターネットで授業の様子をのぞかせて欲しいなど、どんな内容でも結構です。ぜひご検討ください。

編集後記

今回の特集では、甲南の学術的な部分を知りたいという読者の方々の声にお応えし、最先端の研究の一端をご紹介しましたがいかがでしたでしょうか。今後はますます、このように皆様方の「意見」にお応えできる記事も企画してまいります。本年度一年の本誌に愛読に感謝するところにも、来年度につきましても、何卒よろしくお付き合いください。よろしくお願いいたします。

送付冊数のお申し出

「甲南Today」が家に2冊も3冊も届くので、1冊にしてください。という丁寧なお申し出を多くいただいています。送付冊数減や不要などの希望がある場合は、対応させていただきますので、アンケートはごきでお知らせいただけますようお願いいたします。

【お詫びと訂正前導】
徳光さんのプロフィール欄に誤りがあり、関係者の方々に多大なご迷惑をおかけいたしました。深くお詫びし、訂正いたします。(誤(病友)(正)病友)

次号予告(2003年5月発行予定)
NETWORK KONAN
つながる!甲南ネットワーク
甲南大学ネットワークキャンパス東京
KONAN in 東京!?

甲南Today NO.13

発行日/2003年3月15日
発行/甲南学園広報室
〒658 8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1
TEL(078)431 4341(代)
印刷/大日本印刷株式会社